



シングル女性の貧困対策について懇談する（左から）大矢さん、倉林議員＝2日、参院議員会館

単身の中高年女性 生活「苦しい」7割

倉林議員と当事者団体が懇談

40歳以上の単身女性でつくる「わくわくシニアシングルス」と、日本共産党ジェンダー平等委員会責任者の倉林明子副委員長・参院議員は2日、参院議員

会館で懇談しました。単身の中高年女性の生活困窮が深刻化しているとして、貧困に陥らないための政策、制度に向けて話し合いました。

同団体は昨年末、40歳以上の単身女性の生活状況調査を公表しました。2345人が回答し、7割が「暮らしが苦しい」と答え、6割が住居費の支払い後

の家計に余裕がないと答えました。

懇談で、団体の大矢さよ子代表は、回答した4代、5代の大半は就職氷河期世代であり、正規職員は4代が51%、5代が42%で、両世代ともに3人に1人が「年収200万円未満」だと発言。困窮を極めるなか「支援もなく、相談機関とつながっていない人がほとんどだ」と話しました。

また今後、無年金、低年金を招き、さらなる貧困に陥る可能性を強調。男女賃金格差の是正や基礎年金の増額、各種支援体制の充実が必要だと話しました。

倉林氏は中高年単身女性の貧困問題について「人権、尊厳が否定されている状況です。解決は大きな課題です」として政策や施策の見直しが必要だと話しました。